

三者連携推進のための訓練実施報告

- 開催日時：平成31年3月5日(火) 13:00～16:30
- 開催場所：福岡東総合庁舎3階 第2会議室（福岡市博多区博多駅東1-17-1）
- 主催：内閣府（防災担当） 共催：福岡県
- 参加人数：52人（行政＝16人・社会福祉協議会＝11人・NPO等＝25人）

I. 開会挨拶（13:00～13:10）

石垣和子 内閣府政策統括官（防災担当）付 企画官（普及啓発・連携担当）
奥園秀史 福岡県総務部防災危機管理局長

II. 内閣府報告（13:10～13:25）

「全国における三者連携の現状と課題について」

石垣和子 内閣府政策統括官（防災担当）付 企画官（普及啓発・連携担当）

III. 基調講演（13:25～14:00）

「平成29年九州北部豪雨災害における被災者支援活動」

藤澤健児氏（NPO法人Angel Wings 理事長）

IV. 連携訓練ワークショップ（発表・講評を含む）（14:00～16:20）

情報共有会議 議長

藤澤健児氏（NPO法人Angel Wings 理事長）

情報共有会議 登壇者

菊竹浩訓 エフコープ組織本部 本部長

望月文 杷木復興支援ベース/地元応援隊「ひまわり」

森田和枝 朝倉市総務部ふるさと課 課長

堀 圭介 福岡県社会福祉協議会地域福祉部 部長

明城徹也 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク 事務局長

V. 閉会挨拶（16:20～16:30）

石垣和子 内閣府政策統括官（防災担当）付 企画官（普及啓発・連携担当）



石垣和子氏（内閣府・企画官）



奥園秀史氏（福岡県防災危機管理局長）



藤澤健児氏（Angel Wings 理事長）



菊竹浩訓（エフコープ組織本部長）



望月文（杷木復興支援ベース）



森田和枝（朝倉市ふるさと課長）



堀圭介（福岡県社会福祉協議会部長）



明城徹也（JVOAD 事務局長）



連携訓練ワークショップ



連携訓練ワークショップ

参加者一覧

	所属	予定	当日	備考
開催県側参加者	県行政職員	4	4	登壇者（奥園氏）含む
	市町村行政職員	11	12	
	県社協	1	1	
	市町村社協	10	10	
	NPO等	17	26	ボランティア団体、生協、JC、弁護士会と県外団体含む
	小計		52	
内閣府・講師等	内閣府	1	1	石垣氏、長田氏
	朝倉市	1	1	森田氏
	県社協	1	1	堀氏
	JVOAD	1	1	明城氏
	NPO法人 Angel Wings	1	1	藤澤氏
	杷木復興支援ベース/地元応援隊「ひまわり」	1	1	望月氏
	エフコープ生活協同組合	1	1	菊竹氏
	小計	7	7	
合計		50	59	

情報共有会議

議事次第

日時：平成31年3月5日（火）14:00～16:10

会場：福岡東総合庁舎3階 第2会議室

1. 開会

2. 被害状況等の報告（朝倉市ふるさと課） ※配布資料1

3. 災害ボランティアセンターの状況報告（福岡県社会福祉協議会）
※配布資料2

4. テーマ別分科会
 - ・在宅被災者 ※配布資料3
 - ・作業系支援 ※配布資料4
 - ・避難所 ※配布資料5
 - ・その他の支援 ※配布資料6

5. 全体会議

朝倉情報共有会議 2017年8月11日9:00現在
平成29年7月5日の大雨による災害対応・被害状況（速報・第132報）

被害概要

	速報値	確定値	備考
・人的被害	39名	29名	
・住家被害	1147件	件	
・非住家被害	2件	件	
・その他の被害	1031件	件	
・全面通行止		5件	
・片側通行止		1件	
・避難勧告・指示		件	
・避難所開設		6件	
・避難者数	210世帯	423名	

被害状況

※速報値（通報を受付したもの）

①人的被害	39名			
死者	29名	男性 11名	女性 18名	
行方不明者	5名	男性 名	女性 名	
負傷者	5名	重症 名	軽傷 名	

②住家被害		1147件		
区分	件	地域別内訳（旧市町村単位）		
		甘木地域	朝倉地域	杷木地域
全壊	174件	19	12	143
半壊	667件	176	241	250
一部損壊	件			
床上浸水	件	※床上浸水件数はすべて全壊・半壊件数に含まれています。		
床下浸水	306件	91	118	97

③非住家被害		2件		
区分	件	地域別内訳（旧市町村単位）		
		甘木地域	朝倉地域	杷木地域
全壊	1件			1
半壊	件			
一部損害	件			
床上浸水	1件		1	
床下浸水	件			

④その他被害		1031 件		
区分	数	地域別内訳（旧市町村単位）		
		甘木地域	朝倉地域	杷木地域
道路	616 件	159	317	140
橋りょう	30 件	9	10	11
河川	296 件	87	90	119
土砂災害	20 件	13	3	4
農林水産被害	61 件	25	29	7
その他	8 件	4	2	2
断水	件			

⑧避難者数	210 世帯	423 名
避難所名	世帯数	人数
ピーポート甘木	42 世帯	81 名
朝倉地域生涯学習センター	25 世帯	53 名
らくゆう館	37 世帯	80 名
三奈木コミュニティセンター	14 世帯	35 名
杷木中学校	56 世帯	110 名
サンライズ杷木	36 世帯	64 名

⑨開設避難所状況	6 件		
開設避難所名	開設日時	閉設日時	備考
ピーポート甘木	2017/7/5 14:15		
フレアス甘木	2017/7/5 14:15	2017/8/7 7:00	
朝倉地域生涯学習センター	2017/7/5 14:15		
らくゆう館	2017/7/5 14:15		
松末小学校	2017/7/5 16:20	2017/7/8 13:00	
三奈木コミュニティセンター	2017/7/5 19:10		
金川コミュニティセンター	2017/7/5 19:10	2017/7/7 18:00	
秋月中学校武道場	2017/8/6 12:00	2017/8/7 7:00	
麒麟ビール体育館	2017/7/5 19:10	2017/7/7 18:00	
南陵中学校	2017/8/6 12:00	2017/8/7 7:00	
杷木小学校	2017/8/6 12:00	2017/8/7 7:00	
志波小学校	2017/7/5 19:10	2017/7/8 20:50	
杷木中学校	2017/7/5 19:10		
朝倉体育センター	2017/8/6 12:00	2017/8/7 7:00	
大福小学校	2017/7/6 10:00	2017/7/8 13:00	
久喜宮小学校	2017/7/7 19:00	2017/7/25 15:00	
サンライズ杷木	2017/7/8 13:00		
十文字中学校	2017/8/6 12:00	2017/8/7 7:00	

【 朝倉市体制 】

- 2017/8/1 7:30 避難指示を避難勧告へ引き下げ（高木地区、杷木地域）
- 2017/8/6 12:00 避難準備情報・高齢者等避難開始発表[甘木地域（高木地区を除く）、大福地区]
- 2017/8/6 12:00 避難勧告発表（三奈木地区の荷原区）
- 2017/8/6 12:00 避難所開設
（南陵中学校、秋月中学校武道館、朝倉体育センター、十文字中学校、杷木小学校）
- 2017/8/6 14:00 避難勧告発表[甘木地域（高木地区を除く）、大福地区]
- 2017/8/6 14:00 避難指示発令
（三奈木地区の荷原区、高木地区、朝倉地区、宮野地区、杷木地域）
- 2017/8/7 7:00 避難勧告解除[甘木地域（高木地区、荷原区を除く）、大福地区]
- 2017/8/7 7:00 避難指示解除（三奈木地区の荷原区）
- 2017/8/7 7:00 避難指示を避難準備情報・高齢者等避難開始へ引き下げ
（高木地区、朝倉地区、宮野地区、杷木地域）
- 2017/8/7 12:00 避難所閉鎖
（フレアス甘木、南陵中学校、秋月中学校武道館、朝倉体育センター、十文字中学校、杷木小学校）

【仮設住宅】

- ・入居申し込み 7月31日より開始
- ・入居見込み 8月18日から
- ・建設場所
 - 朝倉市杷木小学校グラウンド 40戸
 - 東峰村旧宝珠山小学校グラウンド 17戸

ボランティアの参加状況等一覧（福岡県社協 各センター聞き取り調査結果）

※2017年8月11日（金）現在

○朝倉市災害ボランティアセンター（7月8日開設）

ボランティア参加者数（日計/累計）	1208 / 22863人
新規依頼件数（日計/累計）	12 / 924件
活動件数（日計/累計）	67 / 1782件
完了件数（日計/累計）	20 / 642件
継続件数（日計/累計）	282件

○東峰村（小石原）災害ボランティアセンター（7月14日開設）

ボランティア参加者数（日計/累計）	61 / 2726人
新規依頼件数（日計/累計）	0 / 177件
活動件数（日計/累計）	6 / 283件
完了件数（日計/累計）	3 / 170件
継続件数（日計/累計）	7件

○東峰村（宝珠山）災害ボランティアセンター（7月14日開設）

ボランティア参加者数（日計/累計）	189 / 4182人
新規依頼件数（日計/累計）	2 / 202件
活動件数（日計/累計）	16 / 350件
完了件数（日計/累計）	13 / 169件
継続件数（日計/累計）	33件

○添田町災害ボランティアセンター（7月10日開設）

ボランティア参加者数（日計/累計）	0 / 829人
新規依頼件数（日計/累計）	0 / 87件
活動件数（日計/累計）	0 / 113件
完了件数（日計/累計）	0 / 87件
継続件数（日計/累計）	0件

在宅被災者 状況付与シート

災害から一か月が過ぎ、災害ボランティアセンターや NPO 等の活動のおかげで、土砂や流木、災害廃棄物などは徐々に片付いてきた。ライフラインも水道や電気は復旧している。しかし、一部の地域では、水道を使っておらず、元々井戸水を使っている地域もあるとのこと。

災害ボランティアセンターでは、被災した地域の家屋であっても、災害 VC に依頼が来ていない世帯もまだ多数あると思われるため、ニーズ把握のため、被災した地域を訪問し始めたところ、全壊や大規模半壊の自宅に住み続けている世帯もあるとの情報が挙がってきた。

在宅に物資を届ける活動をしている NPO からも、1 階が被害を受けたため、家電などが使えなくなり、2 階に住み続けている世帯も多いとの情報が挙がってきている。それらの世帯の中には、罹災証明を取得していない世帯、生活再建支援金や応急修理制度について知らない世帯などがある模様。家の再建について、解体したほうが良いのか、修理したらいいのか、どうしたらいいのか分からない、といった声も出ている。

農業支援を行っている NPO からは、家屋よりも果樹園の障害物撤去を優先している農家もあるが、農地の復旧についての制度は行政からはまだ発表はされていないとのこと。

保健士や地域包括支援センターも在宅の世帯を巡回し、健康状態などの確認をしているが、在宅の状況の全体像は把握されていない。

そんな中、県外の NPO から、在宅支援の調査を行ったほうが良いとの提案が行政に対して出された。調査のノウハウはあるが、個人情報の問題や調査員が集まらないなどの問題があり、調査ができていない。過去の災害では、調査を始めると、新たなニーズが挙がってくることもあった。

作業系支援 状況付与シート

土砂、流木、ガレキの撤去の作業が急ピッチですすすめられている。ようやく片付いた地域が出始めている一方で、まだ大量に残っている地域もある。

災害ボランティアセンターでは、継続して土砂撤去の作業を続けているが、ボランティア数はピーク時からはかなり減ってしまった。残ニーズが、あることに加えて、ニーズ調査を行っており、新規ニーズもまだ出てきている。被災した家屋の敷地内の土砂、家財道具出しなどを中心に活動しているが、技術的な支援が必要な案件は、対応しきれしていない。

重機を使った支援ができる NPO、床下の対応ができる NPO が5団体入ってきている。地域を回ってニーズを広げ、活動を展開している。災害 VC に来ているニーズがどうなっているのか気になっているが、自分たちも今持っているニーズへの対応に追われている。土砂を出したくても、置き場がいっぱいで、回収がいつくるか分からない。活動をしていると、大切な物を取り出してほしいといったニーズも、挙がってきている。また、住民からは、自分は仮設住宅に入れるのか、自宅を解体したほうが良いのか、修理したほうが良いのか分からないといった声も出てきている。

行政には、毎日のように、物資や炊出し、マッサージ、重機を使った支援等の支援の申し出が来ているが、どこに繋いだら良いか分からない状況。

また、住民が土砂など出す際に、分別が分にされていないために、行政のほうで手間がかかっているとのこと。

果樹園やビニールハウスに流入した大量の土砂の撤去作業がまだ残っていることに加え、家前の水路にたまった土砂の排出も済んでいません。

各家屋から出された土砂があちらこちらに積まれていて、いまにも道路を防ぎそうになっているという情報が、ボランティアセンターに入ってきています。

水田に所有者不明の車やコンテナが流れ込んでいる箇所があり、撤去をどうしたらいいか、どこに相談したらいいかわからないという困りごとが寄せられている。

避難所 状況付与シート

避難所生活が一か月を超え、避難生活者には疲労の蓄積が見られます。また避難所の運営をしている行政や学校の職員もかなり疲弊している模様。学校の避難所では、体育館と教室を使って、建物内に十分な居住スペースが確保されているが、駐車場で車中泊をしている人もいる。

物資については、基本的な生活用品については、充足してきているが、個別のニーズに対応している物資まで届いているかはわかっていない模様。

寝床は、体育館の上に薄いマットと毛布をだけの人もある様子です。

トイレは水が復旧して使えるようになったが、すべて和式です。

避難所の掲示板には、行政の制度の情報を職員が張り出している。

足湯やマッサージの支援が来ているが、時々支援が重複してしまうことがある。お風呂の巡回バスの支援が始まったりしています。お風呂の巡回バスの支援は、仮設住宅の入居が始まるころまでつづけられる予定です。

洗濯機はつけられたが、使用のルールは決められておらず、混雑している。女性の着替えスペースや、物干し用のスペースも作られていない。

食事は、パンとおにぎりのみの状況は解消し、毎日弁当が配られるようになった。避難所の人数分発注しているが、なぜか毎日弁当が不足してしまう。

子どもたちは、学校が休みということもあり、日中は殆どの時間、ゲームをして過ごしている。また、学校のグラウンドは、仮設住宅建設のために使えません。

避難所にいる学校の人に環境改善を提案しても、決定してくれない。

学校の再開に伴い、避難所は閉所されるとの噂が広まっている。どうしたらいいかわからないといった家族もいる模様。

一部損壊で、家が住める状態なのに、避難所に住み続けている人もいる。

在宅の人も食事をとりに来る人がいるので、行政は食事の提供をストップすることを考えている。

その他の支援 状況付与シート

7月31日から仮設住宅への入居の申し込みがはじまりましたが、全壊世帯優先ということで、半壊や一部損壊で自宅に戻れない世帯は申込ができません。仮設住宅への入居開始がはじまると避難所が閉じられるといううわさもあり、「どうしたらいいか」という相談が増えています。

仮設住宅も、自宅があった場所から遠いところに建設が予定されており、徒歩圏内の周辺に買い物等に行けるところもなく、応募したらいいのか迷っている人も多い。

建設型の仮設住宅では、NPOによって家電の支援ができないか、行政との調整が始められた。

解体費用や住宅再建費用の支援があるのかどうかわからないという相談がたくさん出てきています。中には、まだ家のローンが残っているところに今回被災したので、返済はどうなるのか、再建資金の融資は受けられるかという悩み事が寄せられています。

市外の親戚のところに避難している世帯や元々空き家だったところもあり、連絡が取れず、がれき撤去が進んでいないところもある。

通学路の周辺がまだ片付いていない、公園が土砂などの仮置き場になったために遊び場がなくなった、などの声も行政に届いている。

県外からのボランティアやNPOがたくさん入ってきて、知らない人が多く来ていて不安に思っている住民から行政に問い合わせも来ている。

県外からきているNPOは、活動資金が厳しくなっている。ニーズはあるので活動を続けたいが、このままだと、あと1月以内にいなくなる団体も多いと思われる。これまで高速道路の無料化の制度があったが、いつまで継続されるのか気になる。重機の燃料代などの実費を出してほしいなどの要望も行政に挙げられた。

福岡県連携訓練ワークショップ (3/5)

情報共有会議デモ 記録

【作業系分科会】

藤澤氏

テーマ別の分科会から報告していただきたいと思います。作業系分科会でどのような課題が出たのかについてご報告をお願いします。

望月氏

まず、被害状況の全容の把握をする必要があるということ。NPO・支援団体が関わる中で、どこまでやるのかおよび各団体の支援を行うかどうかの判断基準として、被害状況の全容把握が必要との声が出た。その流れの中で、災害 VC を運営する地元の社協がどこまで関わるのか、つまり社協 VC は家屋だけを対象にしていることが多いが、社協 VC が家屋だけを対象とするなら、NPO・支援団体は農地等の支援に入ることを検討する。社協の基準は地域ごとに違うので、その基準が明確になると NPO・支援団体は動きやすくなるとの意見が出た。最後に、作業系ボランティアが使用する重機について。重機といっても、ショベルタイプ・ハサミタイプなど多種多様であり、ニーズとのマッチングが難しいとの意見も聞かれた。重機の提供の申し出があった際に、その支援の受入側に専門知識をもった人材がいればニーズとの調整が上手くいくとの声も聞かれた。しかし、行政の土木系職員が現場へ出ていってしまう状況下では、社協 VC への行政からの支援は難しくなりそうだと懸念も示された。

藤澤氏

課題を1つずつ確認してみたい。まず、被害状況の全容把握について。朝倉市ではいろいろな団体がそれぞれ状況把握に努めていたと思うが、九州北部豪雨の際はどうか。

望月氏

当初は1ヶ月後のことだったので、会議も何度も行われており、支援に入っている団体や行政との関係も出来ていた。被害の全容把握はある程度出来ていたと思う。会議に参加出来ない団体も ML 等で発信される情報に反応することである程度状況を把握出来ていた。

藤澤氏

各団体がその日の活動の中で気づいたことを情報共有会議の中で話してもらい、支援を行う上で重要になるポイントは皆が把握していたように思う。それを踏まえてどこまで支援を行うかを検討したのだが、VC は基本的に住居空間が中心だった。社会福祉協議会の視点から何かあるでしょうか。

堀氏

基本的には災害 VC は住むところ中心で支援を行う。VC がここまでやる・やらないという明確な基準はないが、基本的に住宅中心の支援と考えてもらって良い。被災者それぞれの状況によって補償等に対する考え方も変わり、状況に合わせて対応している。

藤澤氏

状況に応じてというのはその通りだと思う。支援者と VC 間で情報を共有していくことが大事になってくるだろう。その中で VC ではできないことを情報共有会議の中で出してもらい、会議の中で支援団体を探し、サポートしていければ良い。

望月氏

我々は当初からあった団体ではなく、情報共有会議の中で外部支援が終わること・地元の団体が支援を引き継いでいくことが議論され、その結果生まれた団体。

藤澤氏

実際の会議では、「VC が出来ない泥かきをする団体があるか」等の議題から支援に入る団体が決まり、その後 VC との情報共有や調整等についても議論が交わされていた。

農業関係についての課題も出た。農地は災害 VC の支援の対象外ですが、農業に関する支援を行える団体はあるか。

藤澤氏

ないですね。実際ありませんでした。そこでどうするかということを経営で話し合っていた。その時の様子を朝倉市の森田課長にお話いただきたい。

森田氏

住居の土砂関係が終わると、周囲の農地の土砂が目についた。市は国の資金による土砂除去等の方法を探したが、JA では当初から部会員によるボランティア活動が行われていた。朝倉市は農業を生業とする方が多く、農地の復旧や農道の問題を放置することは出来なかった。そのような状況を会議で説明し、JA・朝倉市・支援団体等で部会員以外も支援に入れないか調整を行った。部会員は会費を払っていることもあり、当初は部会員・非部会員で支援の差別化を行おうという意見も出たが、被害の状況に鑑み、支援要請があった場所には別け隔てなく支援に入ることになり、現在も支援が継続されている。

藤澤氏

農地については、助成で対応するのが基本であったが、カバーできない部分に支援が入った。

明城氏

農業については、当時最初に農業支援をやったのは2団体程度だった。その後、JAと朝倉市・支援団体が協力して農業ボランティアセンターが立ち上がり、家屋の支援に入っていたNPO団体等が農業支援に回ることで、多くの人々が農業ボランティアに関わるようになった。

藤澤氏

答えはでなかったところもあったが、困っている人たちを助けるために何かしなければと知恵を絞ったことで結実したのが、農業ボランティアセンターだった。

明城氏

状況付与シートの中に、土砂等の回収の問題が出てきている。実際は難しい問題。そのあたりについて、行政はどのように対応していたのか教えていただきたい。

森田氏

土砂は道などいろいろな場所に出されていた。回収業者が見つからず、そのままになっている場所も見受けられた。地域の方々と話して、土砂を捨てられる田畑を貸してもらえないか交渉を試みた。川沿いで被害の出た土地を貸してもらおう交渉も行った。その結果、いくつか土砂を置くための土地が見つかり、現在もその場所を利用している。

明城氏

NPO・支援団体が土砂回収をエリアごとに担当したと聞いているが。

森田氏

区会長と連携して、一定期間土砂回収を行った団体があった。

明城氏

ふるさと課は土砂回収の担当部署だったのか。

森田氏

担当部署ではない。しかし、支援団体との関係の中でいろいろな連絡を受けていたのは事実。ふるさと課は区会長などとの地域コミュニティとのネットワークを有しており、協力要請を出しやすかったと考えている。

明城氏

行政に物資提供・機材提供等の申し出があったと聞いているが、それをNPO・VCと繋いだ例があれば教えて欲しい。

森田氏

ふるさと課はボランティアと協力していたため、支援団体から電話がかかってきた。その内容を基に重機系・医療系・その他と3つにカテゴリ分けした支援団体名簿を作成し、支援団体の整理を行った。その名簿は会議で情報提供し、全体会議が終わった後に各分科会内で支援団体の配置等の調整が行われていた。

藤澤氏

重機ニーズのマッチングが難しいという声があったが、朝倉については当初は結という団体が引き取って調整を行った。VCとの調整も結が行った。担える団体を見つけることが出来た。

菊竹氏

災害VCからのボランティア参加者は土日に偏り、平日は人数が少なくなる傾向がある。支援を求める被災者は平日・土日問わず、支援を希望している。平日のボランティアを補完するために、支援団体間で調整し、団体でのボランティア活動を行うことは可能か。

森田氏

朝倉のVCは団体受付と個人受付を行っている。団体受付は被害が大きかった杷木地域で行っており、区会長がニーズとの調整を行う「区会長マッチング方式」を採っている。

菊竹氏

私の組織でも検討してみたい。

堀氏

今説明があった通り、朝倉では団体ボランティアは杷木地域での活動が行われた。区会長の要請を基にボランティアを派遣する「コミュニティ・マッチング方式」であった。ボランティア参加者数は土日には多く来てもらえるが、日を追うごとに平日の人数が少なくなった。今後同じような災害が起こった際は、平日に団体でのボランティア派遣を行うことを検討してもらいたい。

森田氏

団体マッチングを行う際に一番助かったのは、地元の方が受付に入っていたこと。

地元の情報（杷木地域）を知っている方々に受付を任せることが出来たため、ボランティアへの説明や案内がスムーズにできた。団体ボランティアを数多く受け入れられた要因ではないかと思う。

【在宅支援分科会】

藤澤氏

次に、在宅支援についてご報告をお願いします。

菊竹氏

在宅被災者から上がってきた困りごとは3つある。1つ目は、罹災証明・支援金・修理制度を知らない世帯がいること。2つ目は、ボランティアセンターに対するニーズがあるにも関わらず、顕在化してこないこと。3つ目は、子供や障がい等で避難所に行きたくても行けない世帯がいること。この3つが在宅被災者の課題として挙げられた。

藤澤氏

では、順番に検討していこうと思う。まず、罹災証明や支援金・修理等の制度を知らない世帯がいること。これについて、対応ができる団体はあるか。

弁護士会

罹災証明・支援金等を知らない世帯については、弁護士会で「被災者生活再建支援ノート」を全国共通で作っており、その中に支援制度についてまとめたページがある。これを持って被災者宅へ伺いたい。訪問調査等を行う機会があれば、弁護士会としても参加したい。

藤澤氏

それは無料で配布してもらえるということか

弁護士会

その通り。

藤澤氏

必要部数を勘定して連絡したい。支援に入っている団体と協力して。実際に届いた段階で、配布方法を検討したい。

次に、VC へニーズが上がってきていないのではないかという課題について。皆様どのようにお考えか。

菊竹氏

先ほどの分科会で話していたのは、ニーズを把握するには区長や民生委員と連携・協力することが必要ではないかということ。また、その時々地域事情に合わせたニーズがあるのではないかということでした。例えば、8月中旬あたりには、地下水を使用している地域から「地下水が濁っている気がする」との声が寄せられた。ニーズを把握すると同時に、そのような住民の発した声に耳を傾け、行政等に届けていくことが必要かもしれないとの話が出た。誰が聞き取りを行うのかということについては、訪問する人には事前の説明等が必要になる。聞き取ることと伝えることの両方を上手に行わないと、被災者の方とお会いした際のチャンスを活かすことに繋がらない。十分に準備をして状況把握を行うことが重要だとの結論だった。

藤澤氏

聞き取りは生協・弁護士会が行うのか。他にも可能な団体はあるのか。

弁護士会

防災士の方からも人集めに協力できるという話が出ていた。

藤澤氏

では、それぞれの団体で調査をお願いできればと思う。先ほど区長・民生委員からの協力についてお話が出たが、行政からは協力依頼等は行えるのか。

森田氏

区会長・コミュニティ会長とは連絡を取っており、どちらも声掛けすれば対応いただけるかと思う。

藤澤氏

3点目、避難所に行けない世帯があるという課題については、聞き取りにいったということか。聞き取り対象者については、今は在宅という状況なのか。具体的にどのような人達なのか。細かい部分までは調査できていないようなので、その部分を確認して報告してほしい。

在宅分科会担当者

地域のニーズを聞き取りに行く際には、全壊・大規模半壊の際にどのように対応すれば良いかが書かれたパンフレット・みなし仮設等の制度に関する説明資料等を持参すると各世帯に情報提供できるという話が出た。このような資料は市役所で作成されているのか。

森田氏

被災者支援制度に関する冊子を作成しており、紙で出せる情報は全て出している。ただ、高齢者の方々に関しては、なかなか理解が難しい部分もあると思う。その際は市役所に問い合わせるか、朝倉支所・杷木支所等に連絡して欲しいと常々伝えている。

藤澤氏

おそらく資料は配布しているが理解が難しいということだと思う。配布する際に理解度を図る声掛けが必要かもしれない。弁護士会・生協・防災士会でご対応いただく際に、留意していただければと思う。

発言者

全壊・半壊と判定された世帯も数多くおり、今後も数多く出てくると思う。行政の方には、今後住宅借上げ等の施策も検討していただきたい。

藤澤氏

では、在宅分野の支援の話はここで終わりたい。それでは、避難所分科会の方、発表をお願いします。

【避難所分科会】

避難所分科会発表担当者（松尾）

資料を見ていると問題が多く、問題を1つ1つ見ながら対応について話し合った。いくつか挙げると、「車中泊が多い」という課題に対しては「避難所のベッドが足りないことが原因なら、ベッドを用意する必要がある」「このままの状況だと健康を害する人が出てくるのが考えられるので、看護師が必要ではないか」等、どうやって課題を解決するのか、そのために誰に頼めばいいのかといったことが色々出てきた。最終的に問題になったのは、「支援をお願いしたい人・団体に誰が依頼しに行くのか」ということ。避難所内の組織化が出来ていない状況で、誰が頼みに行けるのか。また、避難所に問題があるからと言って、外部から来た人が直ぐに改善するよう言えるのか。そういった避難所内部への伝え方、外部支援者の頼み方が現場の課題として出てくるのではないかという結論になった。

実際に朝倉で解決できなかったこととして、情報の伝え方が藤澤さんから挙げられた。付与シートに「行政の職員が避難所の中に情報を掲示すること」が書かれていたが、実際には書いただけでは伝わらないのではないかと思う。私個人としては、「支援が足りない」という状況は、個々の避難所により異なるのではないかと思っている。特定の避難所では充足されていても、他の避難所ではそうでないかもしれない。そのような状況を解決するために、個々の避難所に入っている支援者等が情報共有会議で情報を持ち寄れば、避難所間で融通することで課題が解決することが期待できるのではないか。

藤澤氏

8月11日時点の避難所での課題解決をしようという意図だったが、具体的な状況を想像するのは難しかったかもしれない。避難所の課題は、実際には細かいものが多かった。情報共有会議では個々の名前を挙げて話がされていた。避難所について何か意見等あるか。

防災士会

車中泊の話が出ていたが、軒先避難者等も避難所に行ければ物資をもらえらると思う。実際の朝倉での対応時には車中泊・軒先避難の方々にはどのように対応がされていたのか。

藤澤氏

豪雨災害だったので、朝倉ではあまり大きな問題とはなっていなかったが、地震などの災害時には車中泊・軒先避難が大きな課題になる状況はあると思う。

社協職員

朝倉では福祉避難所については何か話があったか。

松尾氏

分科会の中では資料に基づいて話をしていたので、福祉避難所については話していない。実際には課題になってくる。

藤澤氏

実際にはどのような課題・対応があったのか。

明城氏

福祉避難スペースは一般の避難所の中に NPO がスペースを設けるといった対応がなされた。難しかったのは、そのようにスペースを設けても活用されなかったということ。そのようなスペースが必要だという認識を共有することも難しかった側面があった。

【その他の支援分科会】

藤澤氏

避難所についてはここまでとしたい。その他の支援の分野について、発表をお願いしたい。

その他の分野分科会発表担当者

分科会では課題がたくさん挙げられた。まずは、在宅・みなし仮設の住民の方へ情報が届きにくいのではないかという情報伝達の問題。行政等からの情報発信の方法を工夫する必

要があるのではないかという話になった。

子どものケアについて。災害復旧に追われて、公園・通学路の整備が追い付かない状況が想像される。しかし、ストレスの多い状況下で生活している子どもたちのためにも必要な施策ではないか。

地域の情報を各地域の支援に反映することについて。区長、自治会長、民生委員からの協力を得なければいけない反面、その方々も被災されているかもしれないのでケアについて考慮することも大事ではないか。

県外からのボランティア団体に対する不安を感じる住民もいるかもしれない。先ほど腕章・ジャンパーについてのお話もあったが（社協職員はビブスを着用している）、住民方が安心できるための配慮が必要になる。

県外からの支援団体の資金についての話題も出たが、地元の NPO 団体はより苦境に立たされているかもしれない。NPO への資金援助等も課題かもしれない。

藤澤氏

いくつか課題を挙げていただいたが、私が最も気になったのが、子供の遊び場がないということ。このあたりは支援が行える団体が多いのではないかと思う。自団体でできることのある方は教えてほしい。

日本防災士会（江藤氏）

杷木では久留米大学の団体「ゆめくる」が子どもたちに対し色々な活動を行っていた。

藤澤氏

うきはベースの学生も参加していた。情報共有会議で活動が繋がった事例だと思う。

日本防災士会（江藤氏）

朝倉では、被災者に対して「～が出来ます」といった申し入れやパンフレットが多々あった。その状況に対して、被災者からは「よく分からない」といった声が出されていた。行政・VC・NPO に対して、クレームは届いていなかったのか。

明城氏

実際には我々も入りにくかった。「住民との関係性が作れない」といった NPO からの声が JVOAD にも届いていた。ただ、住民からのクレームは市役所に届いていたのではないかと思う。

森田氏

情報共有会議に参加された団体に対しては、朝倉から市章を提供していた。区長等に説明

していた。重機等の支援車両についても、特別な車両掲示物を発行していた。市役所に住民からの声・クレームは届いていたが、NPOについては行政が管理しているわけではないので、住民からのクレームに基づいた特定の依頼・要請は行っていない。しかし、NPOの方たちには、被災地のコミュニティの方々にはできるだけ断ってから支援を行うよう伝えるようにした。

藤澤氏

朝倉市が作成した腕章は地域での信頼を得るのに非常に有効だった。

日本防災士会

日本防災士会は各都道府県にあり、活動内容を強化していきたいと考えている。熊本では、大分防災士会から重機を持ち込んで活動した。しかし、長期にわたる活動での燃料費や壊れた際の補償等について支援があれば助かる。どこか心当たりはないか。

明城氏

民間の助成団体としては、中央共同募金会のボラサポが挙げられる。この助成は発災してからすぐに使える訳ではない。申請に通る必要もある。

藤澤氏

燃料費に関しては、朝倉市ではいろいろ工夫されていたように思う。

森田氏

いただいた義援金を地域に分配し、コミュニティで重機を借り上げていただいた事例がある。市に届いた支援金からお支払いした事例もある。

古賀氏

独立行政法人福祉医療機構（WAM）の被災者支援枠も活用できると思う。

石垣氏

西日本豪雨災害の際には、災害救助法の下でのNPO・ボランティア団体への直接の支援は難しかった。市町に提供した重機をNPO・ボランティア団体に貸し出すという対応は運用上認めた。ボランティアの活動に国費を投入することについては、ボランティアな活動に対して受発注の関係を作ってしまうことになる懸念もあり、慎重に判断する必要がある。一方で、支援があればより充実した活動が行えることも事実であり、その兼ね合いを考えながら今後も慎重に議論していきたい。

藤澤氏

県の制度としても、福岡共助社会づくり基金の中から災害対応という形で助成を行っていただいた。

堀

県社協からは災害に特化した助成は行っていない。中央共同募金会による助成や市町村からの資金をいただいてVCの運営を行っていた。

藤澤氏

今日は行政の方、社協の方、NPO等の団体の方々にお話しいただき、いろいろなトピックについて話し合うことができた。皆で話し合うと様々な知恵が出てくる。今後も皆で知恵を出しながら災害ボランティア活動を継続していけるようにできればと思う。

ここまでが情報共有会議のデモで、皆様にも参加して体感していただけたかと思う。多様な団体が集まると1団体では解決できないことも解決できるようになる。その意味で、今後も情報共有会議を大事にしていければと思う。

平成24年には災害時の支援に入った団体は20～30団体程度だったように思うが、平成29年の九州北部豪雨災害時には災害ボランティア連携に関して大きな成果が上がった。今日の訓練の成果を踏まえて、今後より良い災害ボランティア連携の体制を作っていければと思う。

福岡県連携訓練ワークショップ (3/5)

情報共有会議 講評

長田参事官補佐 (内閣府)

今日のワークショップを拝見して数点述べさせていただきたいと思います。まず 1 点目は、情報共有会議の重要性についてです。分科会では数多くの課題が出されていたように思います。私も過去の災害時には現場の情報共有会議に参加し、泥出し・流木・熱中症予防のための看護師の参画・避難所の段ボールベッド等の課題について活発に議論が交わされるのを拝見しました。活発に議論されたということは、被災者支援活動において調整が必要な課題がたくさんあったということの証左だと認識しております。平成 29 年九州北部豪雨災害の際の情報共有会議も有効に機能していたと考えております。改めて、情報共有会議の重要性について、ご理解いただければ幸いです。

2 点目は、平時からの連携の有効性についてです。今回のワークショップに関しましては、時間の関係もあり、情報共有会議が立ち上げられた後の設定で進めさせていただきました。今日お集まりの方は分科会において初めて顔を合わせる方が多かったのではと思います。議論するに際して、不安や遠慮等もあったのではないのでしょうか。特に、災害発生後の切迫した状況において、情報共有会議を速やかに立ち上げて議論していくためには、平時からの顔の見える関係構築が重要だと改めて感じた次第です。

3 点目は、各組織・団体内における連携も重要だということです。情報共有会議での議論の内容が各組織・団体において共有されない、もしくは各部署間の縦割り構造の中で処理されると、被災者支援活動が十分に実施できないことが起こりえます。過去にそのような例があったとも伺っています。皆様におかれましては、自組織・団体内での連携も十分に行っていただければと思います。今日のワークショップがより良い被災者支援を考える契機となればと考えています。

堀部長 (福岡県社会福祉協議会)

今日の情報共有会議では、社協が VC を運営することになっておりましたが、実際には社協職員のマンパワーだけで VC を運営することは難しいのが現状です。今日のワークショップをきっかけに、今後地元で災害 VC が立ち上がった際には、情報共有会議の場を通じて皆様と顔の見える関係づくりを行い、一緒に被災者支援活動を行いたいと思います。社協の立場としましては、VC が立ち上がるとその運営で大変になってしまう現状があり、皆様と協力しながら VC の運営も行っていければ幸いです。

明城事務局長 (JVOAD)

情報共有会議について、1 点お話ししたい。今日はデモとして行い、様々な組織・団体にご参加いただきました。このような会議を開催する際に重要なことは、会議をオープンな場

として運営することです。私が運営に関わる時は、そのことをいつも心がけています。支援に関係する方であれば誰でも参加できるということで、熊本地震・九州北部豪雨の際は会議を行いました。誰でも参加できる会議に来る団体は、他組織・団体と連携する意思を有すると考えられます。災害対応時には、行政・社協 VC に支援を行いたいと様々な団体から連絡があります。その時に、まずは情報共有会議に参加することを勧めてみると、行政・社協の負担が減るかもしれません。情報共有会議には様々な団体が参加し、中にはクセのある団体もあります。しかし、オープンな場の会議形式で運営していた中でこれまで大きな問題は起こっていません。行政・社協の皆さんには、支援の意思を有する知らない人・団体をオープンに受け入れることが大変な場合もあるかもしれませんが、勇気を持って受け入れていただければありがたい。我々は外部の団体で、地元のことを知っている方と一緒に動かないと良い支援を行うことはできません。オープンな情報共有会議の場を作ることで、より良い被災者支援が行えればと思います。場づくりは地域の状況に合った様々な形があり、そのような場づくりをサポートしていければと考えています。

3/5 連携訓練・ワークショップ アンケートとりまとめ

I. 回収状況

配布数：52人（当日の参加者）

回収数：33人（63.5%）

有効回答数：33（100%）

II. 回答者情報

所属	参加人数	回答人数	回答率	割合		備考
行政職員（県）	4	0	0%	0%	33%	
行政職員（市町村）	12	11	92%	33%		
社会福祉協議会職員（県）	1	0	0%	0%	24%	
社会福祉協議会職員（市町村）	10	8	80%	24%		
NPO等	25	14	56%	42%	42%	生協、JC、弁護士会、県外団体含む
無回答	-	0	-	0%	0%	
総計（n）	52	33	63%	100%	100%	

III. 回答（1）連携体の構築に向けて

1.本日の連携訓練・ワークショップを受講し、行政・ボランティア・NPO等からなる連携体を貴市町村に構築または強化する必要があると感じましたか。

必要性を感じない①-②-③-④-⑤	必要性を感じる	人数	割合	
回答⑤		21	64%	91%
回答④		9	27%	
回答③		1	3%	3%
回答②		1	3%	6%
回答①		1	3%	
総計（n）		33	100%	100%

2.連携訓練・ワークショップを踏まえ、今後取り組むべきと考える事項（自由記述）

回答 21 名（64%）

行政職員（市町村）の回答
自治体、社協、NPOをはじめとする団体のできることの把握と連携方法について把握すること、それを共有しておく必要があると思います。まずは社協との共有を図っておくことが（共通認識を持つ）できることかと考えました。また、多くの課題が出ていたので自治体として改善できることから取り組んでいきたいです。
大きな災害を経験していない市にとって、NPO 団体等の団体が信頼できる団体なのか、そうでないのかわからない。事前にある程度各団体とのつながりを持つことは大変重要であると思う。
受援計画の作成・見直し。町役場での連携訓練。
現場の対応は臨機応変だと思うが、想定される課題についてはマニュアル化が必要だと思う。
平時からの社協との連携、FB ページの開設。
行政からの情報提供方法、確実な周知
情報共有会議というものを初めて知った。地元に戻って伝えないといけない。
社会福祉協議会（市町村）の回答
三者連携であるが、被災地を加えた 4 者連携の考え方があるのではないかと。また、災害系の団体だけでない多様な団体のネットワーク化。
・平時からのつながり、役割分担。 ・時間の有効活用。
コミュニティマッチング等、住民主体の災害ボラ運営について検討したい。
自助・共助・公助の役割。
NPO 等の回答
相互連携（顔の見える関係・場） 研修などによる知識・スキルの向上
災害事例におけるボランティアセンター及びボランティア活動の課題等を訓練すべきである。再度訓練の計画を！
それぞれの強み弱みを明確にして、常に情報を共有しておく必要があると思います。また、VCで対応できない作業のために、地域企業との連携ができる状況をつくっておくべきだと考えます。
お互いの組織の日常的な顔合せ、情報交流。
日常的にコミュニケーションをとる。（情報の共有化）
連携組織図を作ってほしい。
三者連携、情報共有会議に地域住民を含めていけるとより充実してものになるのではないのでしょうか。

まずは「集まる場」をつくり、つながりの第一歩を踏み出す必要があると感じました。情報共有会議を誰が、どこで、どのように開催するのか等、決まっておられませんので早急に構築に向けたアクションを起こしたいと思います。

平時の連携と要援護者の支援のための準備が特に必要だと感じました。本日も案内した「被災者生活再建支援ノート」をこの会議で配布するなど、ツールの共有もすべきでした。

対内的な連携、対外的な連携

IV. 回答（2）研修の感想（自由記述）

連携訓練・ワークショップ等についてのご意見・ご感想（自由記述）

評価コメント
実際の災害を基に、行政、社協、NPO ボランティア、関係団体が一緒に訓練することで連携することの大切さを改めて感じました。勉強になることも多く、自分たちができることをまずは取り組んで、他の関係機関とも日頃から関わって情報共有していただきたいです。大変ありがとうございます。
参加させて頂きありがとうございました。三者という違う立場の連携であるがゆえに意見の違いもありますが被災地・被災者支援という目的のために、重要なことだと改めて感じました。
三者連携実現のため、組織として、また個人として出来ることを考え、実行していきたいと思えます。
今回の参加者とは、すんなり連携できると思った。普段から顔の見える関係を作っていきたい。そのためにも、今回のWS はとても良かったです。
とてもよかったです。勉強になりました。やはり、日々の連携が大切ですね。情報共有会議を疑似体験できてよかったです。
ボラセンだけだったので、色々な部署の方の意見が聞けてよかったです。今日の訓練を生かして活用できたら良いと思います。
色々な団体や職業の人の意見が聞けて良かった。
実際現場で起こっている状況での、情報共有会議の必要性を感じました。
要支援者（インクルーシブ）に対する防災、減災についても今後取り組むべきだと思います。
参加させて頂き、誠に有難うございました。
改善コメント
連携訓練になったのか疑問。この違和感が災害時に連携を上手くとれない原因では。その前段の行政、社協、NPO の協力体制を構築する時のワークショップでもいいと思う。
県内外には多くの NPO 災害ボラがいますが、そういった団体とも連携図のようなワークショップがあったら良いと思います。
興味深かったです。強いて言えば、外的連携を図れるよう、親睦を深める時間を作っていたできれば助かります。
自分が住んでいる場所を（地域）が被災した場合を考えながら参加できたので良かったと思う。もう少し時間が確保できれば良かった。
あらかじめ話し合うテーマが分かっていたら、もっと議論が活発になるかなと感じた。
国が見続ける…ではなくこの連携において何ができるのか話してほしかった。
人数が多いと感じます。分割して、1 グループ 5~6 名だともっと意見を出し易いと思います。
会場が狭い気がした。ワークショップの時に声が聞きとりにくい場面があった。

V. 回答（3）各講演等について

講演やワークショップの内容、それぞれの項目について5段階（5＝最高評価）で評価し、その理由をお答えください。

①内閣府報告

①-②-③-④-⑤【⑤段階（⑤＝最高評価）】	人数	割合	
回答⑤	7	21%	48%
回答④	9	27%	
回答③	14	42%	42%
回答②	2	6%	6%
回答①	0	0%	
無回答	1	3%	3%
総計（n）	33	100%	100%

- ボランティアに関する近年の動きから現状を通して、連携の必要性について実感することができました。
- 三者連携の重要性について理解することができた。
- 政府が大災害の度に被災地支援の活動を行いやすい環境作りをしてくれていることがわかった。
- 国が重視していること、基本法など、わかりやすく説明いただき、「弁護士の法律相談」もご案内いただきありがとうございました。
- 行政のできる事が理解できました。
- 簡潔で分かり易い内容だった。
- 市が NPO を受け入れる前提での話しであるが市としてはわからない団体を受け入れるには勇気がいる。国で登録制を設けるなど、検討してほしい。
- 初めての事で全体の理解はできなかった。
- 最近の研修等で話された内容であった。
- 普通だったため。

②基調講演

①-②-③-④-⑤【⑤段階（⑤＝最高評価）】	人数	割合	
回答⑤	7	21%	55%
回答④	11	33%	
回答③	14	42%	42%
回答②	0	0%	0%
回答①	0	0%	
無回答	1	3%	3%
総計（n）	33	100%	100%

- 実践の活動について詳しく説明していただき分り易かったのと、連携できていたからこそ、課題がある中でも多くの支援ができていたのだと思いました。
- H29 九州北部豪雨災害等の支援状況について、非常にわかりやすく解説いただいた。情報共有会議において課題中心の情報共有をすることが最大のポイントであることを強調できました。
- 実態に基づいていてわかりやすかったです。
- 朝倉でのボランティア活動を基に話を聞いてよかった。
- 具体的な会議の情報を知ることができて、よかったです。
- 生の情報が聞けたのが良かった。
- 簡潔で分り易い内容だった。
- 短い時間でしたが理解できました。

③連携訓練・ワークショップ～分科会～

①-②-③-④-⑤【⑤段階（⑤＝最高評価）】	人数	割合	
回答⑤	5	15%	52%
回答④	12	36%	
回答③	12	36%	36%
回答②	1	3%	6%
回答①	1	3%	
無回答	2	6%	6%
総計（n）	33	100%	100%

【ポジティブ】

- 様々な立場からの視点で課題について考えることができました。また、知らなかった活動もあったのでとても参考になりました。
- 各団体のできることを知ることができ、とてもためになりました。防災士、コープさん、市、社協、ボランティア、NPO の立場から、様々な意見をきけて勉強になりました。
- 多くの人の意見が聞けて今後の参考になると思う。
- 違う意見が出て、まとまらないということがよりリアルでよかった。
- 実践的で面白かったです。共有会議に参加しやすくなります。
- 災害時のボランティアセンター及びボランティア活動時に必要（重要）
- 課題について、色々な面での解決の見出しが難しい。
- 1ヶ月後でこの課題…というのはあまりにひどいなと思いました。
- 簡潔で分かり易い内容だった。
- 大変大事な事と思います。

【ネガティブ】

- 自分がどういう立場で分科会に参加しているのか、分らなかったので話しに入っていけなかった。
- 課題を出し合うことと内容の確認でほとんどの時間をついやしてしまった。もっと他のグループ（班）との関連性をもったワークができれば、より深まったと思いました。
- 一般的な話に終始してしまい、個別の課題解決策として話すことができなかった。時間がやや短かった。
- 課題が多すぎて、解決策を導くためには時間が足りなかったと感じた。
- ワークショップでのやるべき事がはじめのうちに理解できていれば、より活発な議論ができるはずです。
- 分野（NPO、防災士会、社協など）で出来ることが明確に示せるところまで出来れば良かったと思う。（次の支援時に〇〇は〇〇に依頼出来る）など分かりやすい。
- 状況付与シートに基づいた議論にならなかった。経験談などが多く訓練とは思えなかった。

④連携訓練・ワークショップ～全体会～

①-②-③-④-⑤【⑤段階（⑤=最高評価）】	人数	割合	
回答⑤	5	15%	61%
回答④	15	45%	
回答③	8	24%	24%
回答②	0	0%	3%
回答①	1	3%	
無回答	4	12%	12%
総計（n）	33	100%	100%

【ポジティブ】

- 参加できなかったテーマに関する課題についても全体を通して共有する機会があり、とても勉強になる内容でした。意見も多く出ていて充実した訓練でした。
- 実際現場で起こっている状況での、情報共有会議の必要性を感じました。
- 色々な情報を聞くことができました。ただ、1つ1つの情報が細切れになっていた為、もっと関連性をもたせた形で話を聞ければと思いました。
- 会議のシミュレーションが分って良かった。
- 情報共有会議の進め方について理解することができた。
- 実際の事例に基づき、具体的対応を知れて、勉強になりました。
- 多くの意見が出て参考になった。
- 簡潔で分かり易い内容だった。
- 勉強会は大変良かった。
- 具体的で良かったです。

【ネガティブ】

- 北部豪雨の実際の話が多く、よく訓練の主旨が理解できなかった。どうせなら朝倉の実体験だけを時系列などで会議の再現とかすればよかったのでは…

VI. 回答（４）研修会の運営について

①連携訓練・ワークショップ全体の時間は適切でしたか？

短い①-②-③-④-⑤長い	人数	割合	
回答①	1	3%	33%
回答②	10	30%	
回答③	18	55%	55%
回答④	3	9%	9%
回答⑤	0	0%	
無回答	1	3%	3%
総計（n）	33	100%	100%

②内閣府報告の時間は適切でしたか？

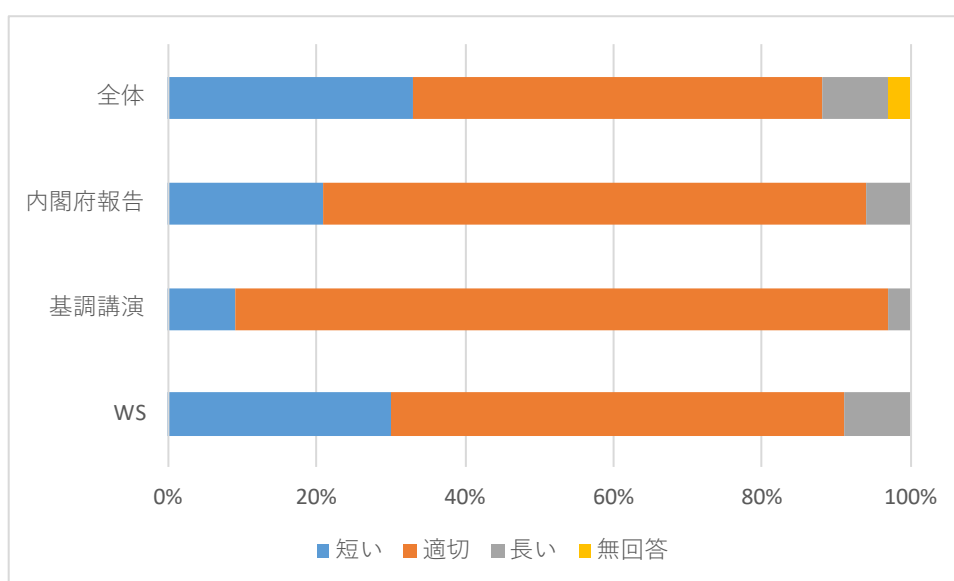
短い①-②-③-④-⑤長い	人数	割合	
回答①	0	0%	21%
回答②	7	21%	
回答③	24	73%	73%
回答④	2	6%	6%
回答⑤	0	0%	
無回答	0	0%	0%
総計（n）	33	100%	100%

③基調講演の時間は適切でしたか？

短い①-②-③-④-⑤長い	人数	割合	
回答①	0	0%	9%
回答②	3	9%	
回答③	29	88%	88%
回答④	1	3%	3%
回答⑤	0	0%	
無回答	0	0%	0%
総計（n）	33	100%	100%

④ワークショップの時間は適切でしたか？

短い①-②-③-④-⑤長い	人数	割合	
回答①	3	9%	30%
回答②	7	21%	
回答③	20	61%	61%
回答④	3	9%	9%
回答⑤	0	0%	
無回答	0	0%	0%
総計 (n)	33	100%	100%



研修会の時間について (n=33)

⑤情報量は適切でしたか？

短い①-②-③-④-⑤長い	人数	割合	
回答①	2	6%	15%
回答②	3	9%	
回答③	24	73%	73%
回答④	4	12%	12%
回答⑤	0	0%	
無回答	0	0%	0%
総計 (n)	33	100%	100%